

平成27年度予算について

経理部経理課

平成27年度予算及び事業計画は、平成27年3月26日の学園理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

本学の平成26年度の収支見込みは、診療報酬の実質マイナス改定による医療収入の伸び悩みや消費税増税による経費上昇等の影響を受け、基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)は、前年度より大幅に減少し1億52百万円の黒字となる見通しです。

また、平成27年度予算における基本金組入前当年度収支差額は、前年度見込額より、5億円増加し、6億52百万円の黒字となる予算を組んでいます。

現在、継続進行中である教職員・学生寮(ドミ

トリーいちょう)の建設や大学病院本館耐震補強工事は順調に進んでおり、また、これから始まる越谷病院での郵政宿舍敷地取得等の大型事業も控えていることから、資金面でも十分な備えが必要になります。

このような予断を許さない経営環境の中、これらの大型事業を進めていくには、これまでも増して収支を改善していく努力が必要となります。教職員の皆様におかれましては、一人一人が常に収支改善に向けた意識を持ち、そのための具体策(収入、支出両面)の検討・実施にご協力をいただきますようお願いいたします。

予算のポイント、事業計画概要及び事業活動収支予算・資金収支予算は次の通りです。

■ 予算のポイント

平成27年度予算は、平成26年9月に策定された第9次基本計画に基づき、財政基盤の強化を図りながら徹底した経費削減に努め、限りある財源をバランス良く配分できるよう配慮しました。

各会計単位の重点施策は次のとおりです。

1)医科大学関連

(1)学務関係

①医学部

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を基本としたカリキュラム構成となっており、効果的な教育体制を構築するために関係経費を計上しました。主な経費としては、一般的な経費以外に学生の海外研修経費として15百万円、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン経費として9百万円、医師国家試験対策としての短期集中合宿(5、6年生)の経費として9百万円を計上しました。また、教務事務システム(看護学部・看護専門学校と統一)の更新と出席管理システムを構築し業務効率を図るための経費として66百万円を計上しました。

②看護学部

高度な臨床看護実践能力が修得可能なカリキュラム編成となっており、より効率的な教育体制を構築するための関係経費を計上しました。主な経費としては、看護師・保健師国家試験対策としての模試試験、特別講義等の経費として4百万円、各領域における臨床実習の実施経費として4百万円、学生の海外研修経費として4百万円を計上し

ました。

また、教務事務システム(医学部・看護専門学校と統一)の更新経費として23百万円を計上しました。

(2)看護師確保対策

全国的な看護師不足が広がる中、本学においても看護師確保が困難な状況であり、深刻な問題となっています。平成27年度についても、これまでに以上に全学を挙げて積極的に募集活動を行い、大学病院・越谷病院・日光医療センターの7対1看護体制の維持及び患者サービスの向上を図ることとし12百万円を計上しました。

(3)教職員・学生寮(ドミトリーいちょう)の整備

平成27年9月竣工予定の2期棟(ドミトリーいちょう)の建築費の最終支払分として5億60百万円を計上しました。

(4)教育環境の整備

教育環境整備として、図書館のコンピュータの更新、それに伴う通信環境の改善を行います。機器の経年劣化と近年、コンピュータ使用時のレスポンスの悪さが顕著に現れて支障をきたしています。実習や国家試験用のコンテンツの利用も増加傾向にあり、また、タブレット・スマートフォン端末を使用して学習する学生も増えてきていることから、機器更新、LAN回線工事の費用として18百万円を計上しました。

2) 大学病院関連

(1) 経営基盤の強化

平成27年度は診療報酬改定の行われない年であることから、自助努力によりいかにして増収へ繋げていくかが大きなポイントです。

地域の中核病院として安全で質の高い医療提供するとともに、地域医療機関との連携をさらに強化し、入院患者数の増加対策により病床稼働率をアップします。

また、DPC制度における診断群分類ごとに設定された特定入院期間の検証、及び医療機関ごとに設定されている医療機関別係数について、従来からの調整係数が段階的に廃止されていく中、病院の特徴を評価する機能評価係数Ⅰ及びⅡにおける係数を意識した病院機能の向上に取り組むことにより、患者一人当たり単価のアップを図る等、様々な施策をもって医療収入の増収を見込みました。

一方、医療経費においては、後発医薬品への積極的な切り替え使用の促進を行うとともに、医療材料の安価な同種同効品への切り替えによるコストダウン及び物品の新規採用プロセスの強化等により、医療経費率を平成26年度見込比0.6ポイントの縮減とし、医療収支の改善（医療粗利益の増加）を図る予算編成としました。

(2) 診療体制の整備【教育医療棟関連】

① 設備機器の整備

平成27年3月の教育医療棟完成に伴い、関連する診療部門及び中央部門等の什器・機器備品の整備費用として、2億57百万円を計上しました。

② ネットワーク機器の整備

教育医療棟及び既設のネットワーク機器（病院統合医療情報システム関連設備）の整備費用（2年計画の2年目）として、16百万円（リース総額1億21百万円）を計上しました。

③ 薬剤運搬ロボットの導入

業務の効率化を目的として、夜間及び休日の教育医療棟への薬剤を運搬するための「病院内自律搬送ロボットHOSPI（ホスピー）」を導入します。

平成27年度はHOSPI（ホスピー）2台の導入費用として45百万円を計上しました。

(3) 統合医療情報システムの充実

① NICU・未熟児部門電子カルテの導入

当院では医療の業務効率を向上させるために電子カルテの導入を推進しており、今後も未導入部

署の電子カルテ化を順次行っていく予定です。平成27年度はNICU・未熟児部門の電子カルテを導入することとし、12百万円（リース総額1億73百万円）を計上しました。

② PACSシステムの更新

統合医療情報システムの基幹システムである医療画像管理システム（PACSシステム）は、平成27年3月にリース契約が終了し、加えて同7月にはサーバーの部品が供給停止（HP製）となることから、大学病院にとって不可欠であるシステムの安定した性能の維持を目的に更新することとし66百万円（リース総額4億97百万円）を計上しました。

(4) 施設関係工事

（本館耐震・空調設備リニューアル工事）

大学病院本館の耐震強化を図るための本館耐震工事が進捗しており、平成27年度は7か年計画の4年目にあたります。工事費用及び耐震設計、監理費用として7億81百万円を計上しました。

また、本館病棟の耐震工事に合わせて、本館病棟の空調設備リニューアル工事及び設備更新工事を同時に実施します。

本館病棟の空調設備リニューアル工事を耐震工事と同時に進めることにより、病棟移動（引越し）を最小限にし、患者様への影響や病棟スタッフへの負担を軽減することができるとともに、工期及びコストの削減も図れることとなります。平成27年度は空調設備リニューアル工事費用及び設備更新工事費用等として6億7百万円を計上しました。

なお、当該耐震工事は、栃木県医療施設耐震化事業費補助対象となるため、補助金収入として2億60百万円を併せて計上しました。

(5) 病児保育室の開設

教職員における子育て環境の向上を目的として、病児保育室を開設することとしました。

病児保育室は、平成27年9月に完成するドミトリーいちょうの中に施設を整備し、病児保育の豊富な実績と知識を兼ね備えた業者に委託します。平成27年度は11月からの開始予定として運営委託料（保育士・看護師業務委託料等）8百万円を計上しました。

(6) 栃木県ドクターヘリ事業

当院を基地病院として開始された栃木県ドクターヘリ事業は、平成22年1月の導入から5年目を

迎え順調に運航稼働しています。加えて、広域連携協定（群馬県・茨城県とのドクターヘリの相互運用）が締結されたことにより、さらに効率的な運航が可能となったことから、3県の救急医療体制の強化が図られています。平成27年度も引き続き効率的な運航を可能とするために、ドクターヘリ運航委託料1億94百万円、その他必要経費9百万円を計上しました。

なお、国と県からのドクターヘリ運営費補助金2億17百万円も併せて計上しています。

3) 越谷病院関連

(1) 経営基盤の強化・安定化

埼玉県東部地域の高度な医療ニーズに応える基幹病院として、引き続き診療体制の強化・充実に努めます。また、現行の7対1看護体制の維持、平均在院日数の短縮、包括医療制度（DPC）への対応、安定した病床稼働率の維持を図り、積極的に医療収入の増額を見込み、経営基盤の強化を図ることを目的に予算編成を行いました。

編成内容として、平成27年度の医療収入は、入院単価69,000円（26年度見込比+6.9%）、外来単価13,850円（同+5.5%）、また、入院患者数については年間病床稼働率92.0%（同+2.8%）の1日665名（同+18名）、外来患者数は1日1,640名（同+18名）としました。

なお、医療経費においては、平成26年度に実施された消費税率引き上げによる経費増額をカバーすべく、後発医薬品への切り替え強化、医療材料の標準化を図り、物品調達適正化や見直しにも引き続き力を注ぐこととし、平成27年度の医療経費率は平成26年度見込38.0%を0.5%縮減する37.5%としました。

(2) 医療機能充実のための隣地の取得

隣地（郵政宿舎）取得のため、平成27年度に、「南側敷地（土地）」（18億14百万円）、「建設工事着手金」（15億円）、「移転補償費」（8億24百万円）、「解体撤去費」（2億35百万円）を合わせて43億73百万円を計上しました。

(3) 高エネルギー放射線治療システムの整備

（放射線機器・施設整備）

導入後14年経過している高エネルギー放射線治療システム（ライナック）の老朽化に伴い、「機器更新費用」として4億80百万円、「ライナック棟新築工事費用」として4億円を計上しました。

(4) オーダリングシステムの更新・拡充

平成19年度にリニューアルを行ったオーダリングシステム（EX）〔23年度に電子カルテ機能を搭載〕が稼働後7年を経過し老朽化が進んだことから、更新を目的として、「システムGX」〔14億11百万円（5年間リース料総額）〕、産科外来診療を紙カルテ運用から電子カルテ運用に変更することを目的として、「産科システム」〔40百万円（5年間リース料総額）〕を始めとする部門システムの導入を含め、総額16億73百万円を計上しました。

4) 日光医療センター関連

(1) 地域社会の信頼に応える診療体制

地域社会の保健医療向上に貢献する基幹病院として、県北西部の地域医療機関との連携強化を推進しながら、診療体制の維持・強化に努めます。

また、引き続き安全で良質な医療の提供を行い、平成26年10月から救急患者受入体制も強化しました。今後も継続的に急性期の医療機能の強化に取り組みます。

看護体制7対1も堅持しつつ、DPC制度に配慮した在院日数の短縮と病床稼働率の向上に努めるとともに、平成26年11月から導入した地域包括ケア病棟を有効に活用し地域の医療ニーズに対応します。

平成27年度の医療収入は入院においては、地域包括ケア病床の設置、救急患者受入体制の強化、外来については平成27年4月からの婦人科設置等による効果を見込み入院単価を50,500円（平成26年度見込比+1,284円、+2.6%）、外来単価を12,200円（同+57円、+0.5%）、患者数については、入院が年間病床稼働率を89.0%（同+2.1%）、年間平均で1日177名（同+4名、+2.3%）、外来については年間平均で1日367名（同+7名、+1.9%）を目標としました。

(2) 経営の効率化・合理化

病院経営の安定化、効率化、合理化を更に進め、引き続き後発医薬品への切り替え並びに医療材料の見直し等の経費削減に努めます。救急患者の増加等による高額医療材料の使用も見込まれることから、医療収入に対する経費率は26.5%（平成26年度見込比+0.3%）を目標としました。

(3) 診療体制の整備

（医療機器の整備、更新）

医療機器については、開院当初設置した機器が

10年目を迎えることから医療の質向上及び医療安全の推進並びに機器経年劣化、陳腐化等に対応するため医療設備費は昨年に引き続き1億50百万円としました。婦人科の開設に伴う電子カルテ導入、また地域の災害時医療体制充実のための災害拠点病院設備整備等の新規取組みの予算として40百万円を計上しました。

(施設関係の整備、更新)

施設関係については、病院機能を維持する上で必須の設備である熱源設備の経年劣化に伴う更新工事(2年計画の1期目)86百万円、老朽化した建物付帯設備の改修工事60百万円、経年劣化の対応として、パッケージエアコン、ナースコール及びUPSバッテリー更新等に33百万円、その他、婦人科の開設費用、院内サイン更新等に22百万円、総額 2億1百万円を計上しました。

5) 附属看護専門学校関連

(1) 教学関係

平成27年度においては、看護専門学校の教育目標に基づき、より効果的な教育体制を構築するための関係経費として、基礎看護学実習、領域別看護学実習及び体験学習等に要する経費を計上しました。そのうち、2年次2月から3年次11月までの約11か月間に亘り実施する領域別看護学実習については、学生は、少人数編成によるグループに分かれ、精神病院、地域の施設等多くの臨床現場において、患者様のニーズに適した看護実践能力を身につけるための実習を行なっています。これらの実習施設に対する謝礼金等の必要経費として4百万円計上しました。

その他、看護師国家試験対策の一環として毎年行なっている外部業者の模擬試験受験料として1百万円を計上しました。

(2) 教育環境の整備

平成27年度においては、学生の実習環境の充実・向上を図るべく、少人数編成に対応したパラマウントベッド、シミュレーションモデルの購入代として3百万円計上しました。また、開学当初から使用している学生机・椅子の老朽化が進んでいることから、これらを段階的に整備することとし、平成27年度はまず、第1学年及び第2学年が通常使用している2室の机・椅子(各120組)の総入れ替えを行います。(3百万円計上)さらに、昨年度に引き続き、教育研究用ソフトウェアの整備(既存の成績管理システムの変更)として11百万円計上し、設備関係支出は総額17百万円としました。

(3) 校舎のアスベスト除去工事及び実習環境の充実

① 校舎天井吹き付けアスベスト除去工事

平成27年度においては、看護専門学校天井吹き付け材のアスベスト除去工事を実施することとし、教育用修繕費として41百万円計上しました。当該アスベストについて、本校各室の粉じん濃度測定を行なった結果、現状ではアスベスト繊維の飛散はなく、人的被害も心配ないことが確認されています。今後は、表面状態の調査及び維持管理を行いながら、学生が不在となる春季及び夏季休暇の期間を目途に段階的に除去工事を行う予定です。

② 実習室の設置

平成27年度においては、恒常的な実習室不足を考慮し、本校が専有している「ドミトリーさくら1階フロアー」を新たに在宅看護論臨床実習等の実習室として整備し、実習環境及び実習指導体制の充実を図ることとし、教育用修繕費として6百万円計上しました。

6) 附属看護専門学校三郷校関連

(1) 入学前教育

看護を学ぶにあたり最低限必要な基礎学力の確認・養成、主体的に学習する姿勢の確立やモチベーションの維持のために、eラーニングによるドリル形式の学習に入学決定直後から取り組むことは、入学後の学習をスムーズに進めることに繋がることから実施経費を計上することとしました。

(2) 宿泊学習

基礎分野科目「人間関係論」の授業内容の一環として、宿泊を通して人を理解し人間関係構築について学ぶことは、新入生同士の仲間づくりクラスづくりに繋がると共に、看護実践の基盤となる重要なものです。また、宿泊場所を鹿沼市ニューサンピアとすることで獨協医科大学施設、日光医療センターの見学を通して、本学に対する帰属意識を高めることを目的として実施経費を計上することとしました。

(3) 外部講師による特別講演

看護学生は1年次から病院や地域で臨地実習を行いますが、その時の患者や家族、他職種の方々との接遇の良し悪しは看護の過程や結果に影響を及ぼす可能性が高まります。また、接遇は一時的な教育では身につかないため、1年次から卒業まで継続して教育していくことが必要となります。そのようなことから、外部講師を招いて接遇につ

いての特別講演を実施するための経費を計上することとしました。

(4)公用車の購入について
実習指導先が老年・精神・小児・在宅におい

て、県内様々な場所に点在し、公共交通機関での移動が困難となります。また、教職員が電車通勤のため自家用車を実習指導に使用することができないことから、公用車の購入費用として1百万円を計上することとしました。

■ 事業計画概要

(単位：百万円)

事業名	事業内容	27年度予算
(医科大学)		
1. 教学関係		
【医学部】		
1) 全国共用試験	1) CBT：コンピューターによる医学知識試験の実施 OSCE：「医療面接」「頭頸部」「胸部」等7つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施	5.2 2.1
2) 早期医学・地域医療体験	2) 期間集中型科目「コミュニティーヘルスインターンシップ」「アドバンスドコミュニティーヘルスインターンシップ」、選択科目「地域包括医療実習」の開設による本学附属病院や学外の福祉施設等での体験学習の実施	3.1
3) 学生の海外研修	3) 学内試験選抜の学生の海外大学病院等における約2週間の見学実習の実施	14.9
4) 医師国家試験対策合宿	4) 5・6年生を対象に、卒業試験・医師国家試験の合格に向けて、短期集中合宿を実施	9.3
5) 国際交流等の拡充・充実	5) 国際交流の拡充や支援、海外大学との提携等の検討、海外視察の実施	3.0
6) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	6) 本学国公立8大学の共同申請による「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」に参加	9.0
7) 国際交流推進	7) 海外の大学・教育研究機関等との交流及び国際協力事業の推進	7.9
8) 教務事務システム更新	8) 学生データ一元管理及び業務効率化のための新システムの導入	58.2
9) 出席管理システムの導入	9) 講義毎の出席確認を出席票による記入方式からICカード認証方式に変更	7.3
【看護学部】		
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	4.1
2) ふれあい看護学実習	2) 地域の健康な人々とのふれあいを通して、価値観や健康保持のための看護の役割等の学習	0.9
3) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び看護援助の体験学習	0.6
4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実態を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	0.8
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナー等の環境整備、模擬試験・特別講義等の実施	4.4
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習の実施	3.6
7) 成績管理システム更新	7) 学生情報及び成績の一元管理、カリキュラム変更に対応するために新システムを導入	22.6
2. 施設・設備関係		
1) 教職員・学生寮(ドミトリイ一ちょう)建設工事	1) 教職員・学生寮の建設(建設費560.3、売店から一般室への用途変更工事13.9、水道加入権85、LAN導入費5.9、カーテンレール設置費2.5)	591.1
2) 関記念学生館居室電気給湯器更新工事	2) 電気給湯器144台の更新	29.5
3) 病児保育室設置工事	3) ドミトリイ一ちょう1階会議室から病児保育室へ変更	23.8
4) 臨床棟防災装置更新工事	4) 火災警報受信機更新	18.8
5) 臨床医学棟給湯リニューアル工事	5) ボイラーの更新、給湯設備リニューアル工事	15.8
6) 教育研究・実習用機器備品	6) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	581.4
7) 図書	7) 教育研究用図書の整備充実	42.2
3. 管理運営関係		
1) 図書館利用環境の整備	1) 利用環境整備(LAN回線の更新・LAN工事15.9、利用者用コンピュータの更新2.3)	18.1
2) 看護師確保対策	2) 就職説明会及び病院見学会の実施、就職セミナーの参加、看護師募集サイトの機能等充実	11.5
3) ホームページ更新・DPC分析ソフト導入	3) ホームページ更新及びDPC分析業務の効率化により、迅速に報告ができる体制の構築	9.9
4) 会計ソフト・資産管理ソフトの導入	4) 減価償却等のソフト開発及び導入	9.9
5) 電子ペーパーシステムの導入	5) 教授会等配布資料のペーパーレスによる紙資源等の削減	6.5
(大学病院)		
1. 医療活動関係		
1) 統合医療情報システム	1) 電子カルテシステム、PACSシステムの維持管理	509.0
2) 栃木県ドクターヘリ事業	2) ドクターヘリ運航業務の委託他	202.9
3) 教育医療棟設備機器の整備	3) 教育医療棟完成に伴う機器備品及び什器の整備	92.5
4) 教育医療棟へ移設後の院内設備機器の整備	4) 教育医療棟への移設に伴う院内設備機器の整備	40.0
2. 施設・設備関係		
1) 本館耐震工事(4/7期)	1) 耐震補強工事(耐震工事750.0、設計・監理費31.0)	781.0
2) 本館病棟空調設備リニューアル工事(1/4期)	2) 空調設備更新工事(リニューアル工事300.0、設備更新工事240.0、電源増強工事43.0、設計・監理費24.0)	607.0

事業名	事業内容	27年度予算
3) 救命救急センターICU拡張工事	3) ICU病床増床工事(拡張工事370.0、設計・監理費30.0)	400.0
4) 中央監視装置更新工事(1/3期)	4) 中央監視装置の更新工事	260.0
5) 教育医療棟完成後の本館整備工事	5) 本館改修工事(改修工事230.0、設計・監理費18.0)	248.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	600.0
7) 医療画像管理システムの更新	7) PACSシステムの更新	496.8
8) 教育医療棟へ移設後の院内設備機器の整備	8) 救命救急センターICU拡張に伴う機器備品の購入	180.0
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	50.0
(越谷病院)		
1. 医療活動関係		
1) オーダリングシステム	1) オーダリングシステムの構築、各種システム更新	460.6
2) SPD業務委託拡充	2) 薬剤部における在庫管理、消費データ管理等の業務の拡充	35.5
3) 病室用備品の更新	3) 吸引機、オーバーテーブルの購入	7.0
2. 施設・設備関係		
1) 郵政宿舎(南側)敷地取得及び新棟建設工事	1) 隣地(郵政宿舎)取得(土地取得費1,813.8、新棟建設工事着手金1,500.0、移転補償費824.0、解体撤去費235.0)	4,372.8
2) ライナック棟新築工事	2) ライナック機器更新に伴う建設工事	400.0
3) 北棟CT室跡地更衣室改修工事	3) 読影室に改修	98.6
4) RIモニター設備更新及び排水設備補修工事	4) 経年劣化による更新	83.0
5) 瓦曽根外来棟新築工事	5) 外来棟新築(新築工事340.0、ブリッジ工事50.0)	390.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	200.0
7) オーダリングシステム更新	7) オーダリングシステムのリース機器導入及び更新	1,673.3
8) 放射線機器整備	8) ライナック棟新設に伴う機器の購入	480.0
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	5.0
(日光医療センター)		
1. 医療活動関係		
1) 業務外注化	1) 施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	269.5
2) 医療情報システムの充実	2) 電子カルテシステム及び部門システムの充実	156.3
3) 診療報酬改定に伴うシステム変更	3) 医事システム及び電子カルテシステム他の変更作業	3.2
2. 施設・設備関係		
1) 熱源設備更新工事(1/2期)	1) 機械室熱源設備の経年劣化による更新工事	86.4
2) 手術室空調更新工事	2) 手術室3室パッケージエアコン更新工事	15.0
3) 外来診察室改修工事	3) 診療科新設に伴う外来改修工事	11.0
4) ナースコール更新工事	4) 4階西病棟ナースコール更新工事	8.7
5) 医療設備機器整備	5) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	150.0
6) 婦人科電子カルテ導入	6) 婦人科新設による診療体制の整備	11.9
7) 災害拠点病院設備整備	7) DMAT関連装備品の購入	9.8
8) へき地診療所の設備整備	8) 各種医療機器の購入	5.4
(附属看護専門学校)		
1. 教学関係		
1) 領域別看護学実習	1) 各領域において3週間1クールとして病院や施設での実習を実施	3.5
2) 体験学習	2) 看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	1.3
3) 専任教員の研修・研究	3) 看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.3
4) 全国模擬試験	4) 看護師国家試験の模擬試験の実施	1.0
2. 施設・設備関係		
1) アスベスト除去工事	1) 教員室・事務室・講師控室・6番教室を除く校内の全ての天井のアスベスト除去	41.5
2) 実習室の設置	2) ドミトリーさくら内1F・実習室設置のための改修工事	6.0
3) 学生情報・成績管理システム導入	3) 前後期末試験成績や学籍簿の管理のため新システムを導入	11.4
3. 管理運営関係		
1) 看護学生募集パンフレット制作	1) パンフレット・ポスターの作成	1.9
(附属看護専門学校三郷校)		
1. 教学関係		
1) 宿泊学習の実施	1) 人間関係形成とクラスづくりを目的とした宿泊学習	0.8
2) 入学前教育の実施	2) 入学前にeラーニングを活用し、看護を学ぶにあたり、最低限必要な学力・意欲・基礎的スキルを養成する	0.5
3) 外部講師による特別講演の実施	3) 外部講師による接遇教育の実施	0.4
2. 施設・設備関係		
1) 車輛の購入	1) 公用・実習時用車輛の購入	1.0
2) 図書購入	2) 図書室の整備充実	1.0
3. 管理運営関係		
1) 学校パンフレット制作	1) パンフレット・ポスターの作成	1.2
2) 看護学生募集要項の制作	2) 入学試験募集要項の作成	0.7

■ 事業活動収支予算の概要

平成27年度事業活動収支予算書 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

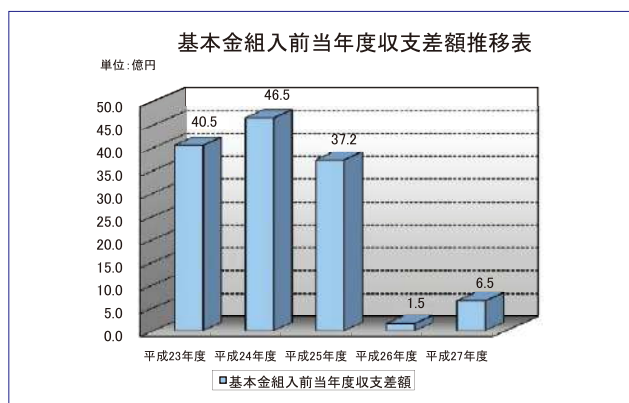
(単位：百万円)

科目			年度	平成27年度 予 算 額	平成26年度 決算見込額	増 減
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金		5,231	5,249	△18
		手 数 料		204	202	2
		寄 付 金		896	860	36
		経 常 費 等 補 助 金		3,089	2,996	93
		(国 庫 補 助 金 収 入)	(	2,538)	(2,441)	(97)
		(地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入)	(	549)	(553)	(△4)
		(そ の 他 補 助 金 収 入)	(	2)	(2)	(0)
		付 随 事 業 収 入		406	375	31
		医 療 収 入		70,490	66,738	3,752
		雑 収 入		581	602	△21
		教 育 活 動 収 入 計 A		80,897	77,022	3,875
	事業活動支出の部	人 件 費		32,901	31,925	976
		教 育 研 究 経 費		44,510	41,631	2,879
		(医 療 経 費)	(	27,878)	(26,743)	(1,135)
		(一 般 経 費)	(	10,408)	(9,792)	(616)
		(減 価 償 却 費)	(	6,224)	(5,096)	(1,128)
		管 理 経 費		2,795	3,174	△379
		(一 般 経 費)	(	2,434)	(2,796)	(△362)
		(減 価 償 却 費)	(	361)	(378)	(△17)
		徴 収 不 能 額 等		96	108	△12
	教 育 活 動 支 出 計 B		80,302	76,838	3,464	
教育活動収支差額 C (A - B)			595	184	411	
教育活動外収支	収入	受 取 利 息 ・ 配 当 金		77	87	△10
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入		0	0	0
		教 育 活 動 外 収 入 計 D		77	87	△10
	支出	借 入 金 等 利 息		21	18	3
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出		0	0	0
		教 育 活 動 外 支 出 計 E		21	18	3
教育活動外収支差額 F (D - E)			56	69	△13	
特別収支	収入	資 産 売 却 差 額		0	10	△10
		そ の 他 の 特 別 収 入		458	433	25
		(うち施設設備補助金・国庫)	(	136)	(31)	(105)
		(うち施設設備補助金・地公体)	(	280)	(263)	(17)
		法 人 負 担 金		0	0	0
	支出	特 別 収 入 計 H		458	443	15
		資 産 処 分 差 額		155	319	△164
		そ の 他 の 特 別 支 出		0	0	0
		法 人 負 担 金		262	225	37
		特 別 支 出 計 I		417	544	△127
	特 別 収 支 差 額 J (H - I)			41	△101	142
(予 備 費) K			40	0	40	
基本金組入前当年度収支差額 L (C + F + J - K)			652	152	500	
基本金組入額合計 M			△11,552	△12,568	1,016	
当年度収支差額 N (L + M)			△10,900	△12,416	1,516	
前年度繰越収支差額 O			△81,064	△68,648	△12,416	
基本金取崩額 P			0	0	0	
翌年度繰越収支差額 Q (N + O + P)			△91,964	△81,064	△10,900	

参 考	事業活動収入計	81,432	77,552	3,880
	事業活動支出計	80,780	77,400	3,380

事業活動収入は、今年度見込比5.0%、38億80百万円増となる814億32百万円を計上しました。この主な要因は、3病院の医療収入の増収によるものです。3病院ともに、延べ患者数・患者1人1日当たり単価・病床稼働率のアップ等積極的な取り組みにより増収を図ります。

一方、事業活動支出は今年度見込比4.3%、33億40百万円増となる807億40百万円を計上しました。この主な要因は、人件費の増加並びに医療収入の増収に伴う医療経費の増加によるものです。特に人件費に関しては、越谷病院の200床増床（平成30年度）に備えて、前倒しでの必要人員確保を織込んでいます。その結果、基本金組入前当年度収支差額は、今年度見込比328.9%、5億円増となる6億52百万円の収入超過（黒字）となります。なお、事業活動収支差額比率は0.80%です。また、内部留保額は、73億92百万円となる見込みです。



1.事業活動収入

○学生生徒等納付金

医学部新入生120名、大学院医学研究科25名、看護学部新入生100名及び3年次編入生4名、大学院看護学研究科10名及び助産学専攻科10名を見込み授業料等を算出し、今年度見込比△0.3%、18百万円減の52億31百万円を計上しました。

○寄付金

①教育活動収入（寄付金）

厳しい社会経済情勢を反映し今後も増収は難しい状況ですが、受配者指定寄付制度や免税措置等の寄付者へのメリットをアピールし、積極的に寄付金募集活動に取り組みます。今年度見込比4.2%、36百万円増の8億96百万円を計上しました。

②特別収入（寄付金）

その他の特別収入のうち、現物寄付として41百万円を計上しました。

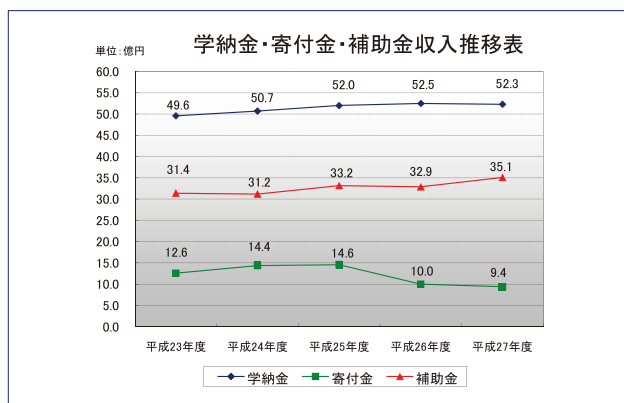
○補助金

①教育活動収入（補助金）

経常費補助金は、増減率変更や圧縮率の見直しを考慮して、今年度見込比3.0%、65百万円増の22億14百万円を計上しました。また、その他主な補助金として、医大の文科省戦略的基盤形成支援事業補助金61百万円、大学病院の臨床研修費等補助金1億14百万円、総合周産期母子医療センター運営費等補助金1億円、ドクターヘリ運営費等補助金2億17百万円、越谷病院の救命救急センター運営費補助金59百万円等を計上。総額で今年度見込比3.1%、93百万円増の30億89百万円を計上しました。

②特別収入（補助金）

その他の特別収入のうち、施設設備補助金として4億17百万円を計上しました。主な補助金として、文科省施設整備費補助金他1億36百万円、大学病院の医療施設耐震化事業補助金2億60百万円を計上しました。



○医療収入

3病院（大学病院・越谷病院・日光医療センター）とともに7対1看護体制を維持し、DPC制度における適切なコーディングへの対応と高水準な病床稼働率を保つことにより今年度見込みを上回る予算を計上しました。また、入院収入、外来収入とともに単価アップにより増収予算を計上しました。

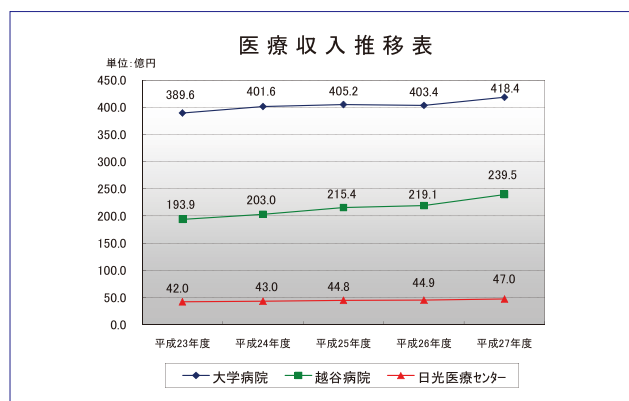
入院収入：今年度見込比6.3%、27億9百万円増の455億34百万円

外来収入：今年度見込比4.2%、9億5百万円増の224億6百万円

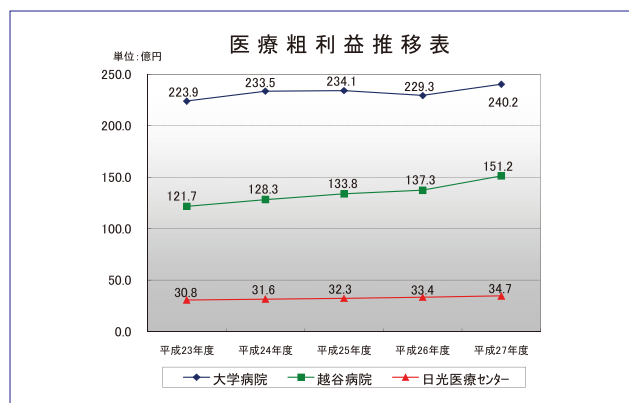
室料差額：今年度見込比3.6%、70百万円増の19億98百万円

医療雑収：今年度見込比14.0%、68百万円増の5億52百万円

総 額：今年度見込比5.6%、37億52百万円増の704億90百万円



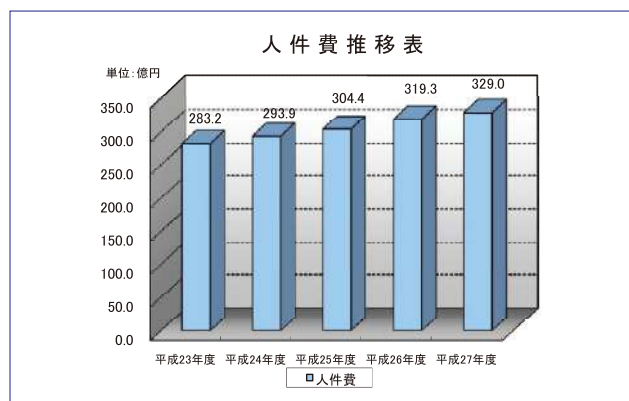
また、病院の医療活動から直接得られる利益である医療粗利益（医療収入－医療経費）については、3病院合計で前年度見込比6.5%、26億17百万円増の426億12百万円となりました。



2.事業活動支出

○人件費

教員人件費は、今年度見込比3.3%、2億81百万円増の87億73百万円、職員人件費は、2.6%、5億63百万円増の222億23百万円、退職金は、今年度見込比△18.9%、2億円減の8億57百万円、退職給与引当金繰入額は、今年度見込比7.5%、1億33百万円増の19億6百万円を計上しました。



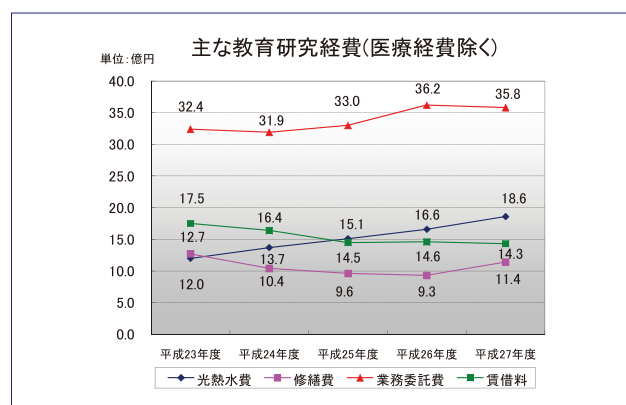
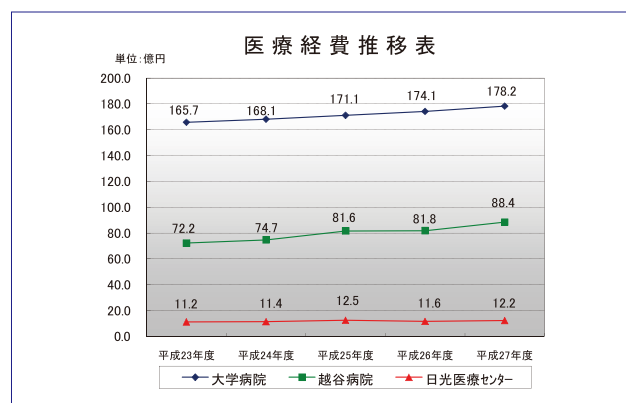
○教育研究経費

教育研究経費は、今年度見込比6.9%、28億79百万円増の445億10百万円を計上しました。

このうち医療経費は、総額で今年度見込比4.2%、11億35百万円増の278億78百万円を計上しました。

大学病院では、今年度見込比2.3%、4億8百万円増の178億17百万円（医療経費率44.2%）、越谷病院では、今年度見込比8.1%、6億62百万円増の88億39百万円（医療経費率37.5%）、日光医療センターでは、今年度見込比5.6%、65百万円増の12億22百万円（医療経費率26.5%）。

また、一般経費は、今年度見込比6.3%、6億16百万円増の104億8百万円を計上しました。



○管理経費

管理経費は、今年度見込比△11.9%、3億79百万円減の27億95百万円を計上しました。

○法人負担金

法人負担金は、今年度見込比16.4%、37百万円増の2億62百万円を計上しました。

○徴収不能額等

徴収不能額等は、今年度見込比△11.1%、12百万円減の96百万円を計上しました。

○借入金等利息
借入金等利息は、16.7%、3百万円増の21百万円を計上しました。

■ 資金収支予算の概要

平成27年度資金収支予算書
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位：百万円)

科目		年度	平成27年度 予算額	平成26年度 決算見込額	増減
収入の部	学生生徒等納付金収入		5,231	5,249	△18
	手数料収入		204	202	2
	寄付金収入		894	891	3
	補助金収入		3,506	3,290	216
	(国庫補助金収入)	(	2,675)	(2,472)	(203)
	(地方公共団体補助金収入)	(	829)	(816)	(13)
	(その他補助金収入)	(	2)	(2)	(0)
	資産売却収入		0	16	△16
	付随事業・収益事業収入		406	375	31
	医療収入		70,490	66,738	3,752
	受取利息・配当金収入		77	87	△10
	雑収入		581	602	△21
	借入金等収入		2,000	3,000	△1,000
	前受金収入		1,479	1,478	1
	その他の収入		22,680	25,590	△2,910
	資金収入調整勘定(△)		△14,590	△13,618	△972
	法人負担金収入		0	0	0
	前年度繰越支払資金		9,184	9,466	△282
合計			102,142	103,366	△1,224
支出の部	人件費支出		31,854	31,211	643
	教育研究経費支出		38,286	36,535	1,751
	管理経費支出		2,434	2,796	△362
	借入金等利息支出		21	18	3
	借入金等返済支出		1,028	512	516
	施設関係支出		9,017	12,087	△3,070
	設備関係支出		5,974	4,427	1,547
	資産運用支出		6,000	5,800	200
	その他の支出		12,560	12,058	502
	予備費		40	0	40
	資金支出調整勘定(△)		△13,439	△11,487	△1,952
	法人負担金支出		262	225	37
	翌年度繰越支払資金		8,105	9,184	△1,079
	合計		102,142	103,366	△1,224

資金収支予算は平成27年度の収入及び支出に関わる全ての資金を計上しています。以下、消費収支予算と重複するものを除いて主な項目について説明します。

1. 資金収入

○借入金等収入
安定した資金繰りを勘案し、運転資金として長期借入金20億円を計上しました。

○前受金収入
前受金収入は、前年度見込比0.1%、1百万円増の14億79百万円を計上しました。

○その他の収入
その他の収入は、前年度見込比△11.4%、29億

10百万円減の226億80百万円を計上しました。

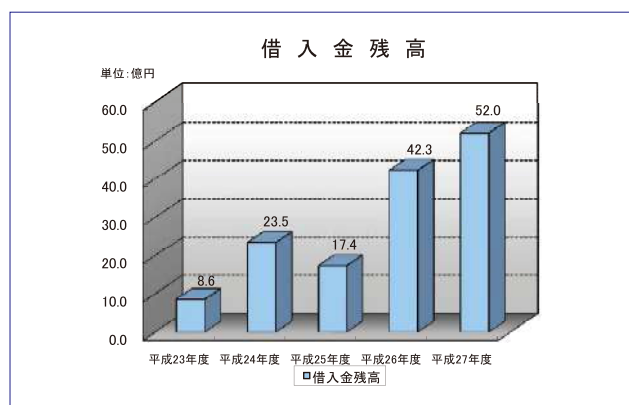
○前年度繰越支払資金

前年度繰越支払資金は、前年度見込比△3.0%、2億82百万円減となる91億84百万円計上しました。

2. 資金支出

○借入金返済支出

借入金返済支出は、市中金融機関からの長期借入金の約定償還10億28百万円を計上しました。
なお、平成27年度末の借入金残高は、新規借入調達予定分20億円を含め52億円となる見込みです。

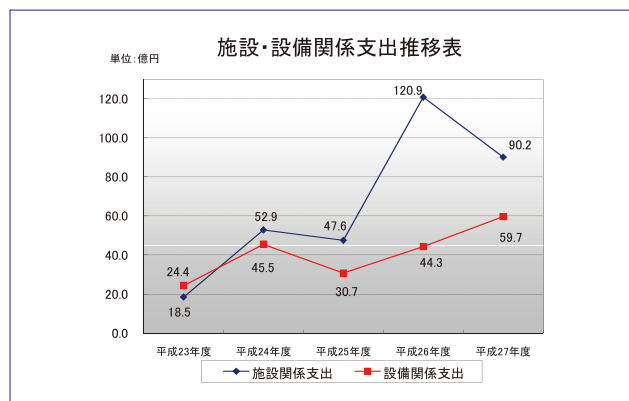


○施設関係支出

施設関係支出は、医大の教職員・学生寮（ドミトリーいちょう）建設、大学病院本館耐震工事、越谷病院では郵政宿舍敷地取得等の大型事業が控えているものの、平成26年度末をもって教育医療棟が完成したことにより、今年度見込比△25.4%、30億70百万円減の90億17百万円を計上しました。

○設備関係支出

設備関係支出は、今年度見込比34.9%、15億47百万円増の59億74百万円を計上しました。



○資産運用支出

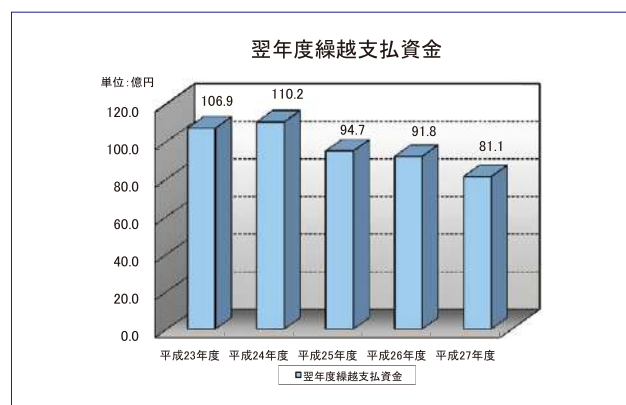
資産運用支出は、減価償却引当特定資産を2億円積み立てます。今年度見込比3.5%、2億円増の60億円を計上しました。

○その他の支出・資金支出調整勘定

その他の支出は、125億60百万円、資金支出調整勘定は、134億39百万円を計上しました。

○翌年度繰越支払資金

翌年度繰越支払資金（年度末現預金）は、前年度見込比△11.8%、10億79百万円減の81億5百万円となる見込みです。



以上、平成27年度予算の概要を説明しました。

予算執行に当たっては、これまで以上に教職員一人一人が当事者意識を持って経費節減に取り組むとともに、実施する内容の必要性、緊急性を再度十分に検証していただくようお願いします。

なお、予算内容について、ご不明な点、ご質問等がありましたら、大学事務局経理課までご照会ください。